

コミュニティソーシャルワーク・ パワーアップセミナー2025

開催要項

地方自治体における包括的支援体制の構築に向けた重層的支援体制整備事業が、2021年度から全国の自治体において試行的に実施され、コミュニティソーシャルワーク実践は、地方自治体における包括的支援システムの構築を担う中核的なソーシャルワーク実践として位置づけられたと言えよう。現在、厚生労働省の「地域共生社会の在り方検討会議」において、これまでの重層的支援体制整備事業の検証と今後のあり方が検討されている。また、全国社会福祉協議会が公表した社会福祉協議会基本要項2025においても、社会福祉協議会の活動原則の一つとして、個別支援と地域づくりの一体的展開の原則があげられており、社会福祉協議会においてコミュニティソーシャルワーク実践の一層の拡充が期待されている。

一方、地域社会においては、複合的な課題や制度の狭間問題、単身・多死化社会、人口減少などに伴う子どもや親族によるサポートが期待できない事例や生活環境の危機など多くの課題が全国的に広がり深刻化している。

本セミナーは、昨年度第一回を開催し、今年度は第二回となる。全体プログラムでは、政府の地域共生社会構築に向けた重層的支援体制事業を含む今後の方向性について確認し検討するとともに、シンポジウムでは、コミュニティソーシャルワーク実践におけるアウトリーチの意義、その方法と課題について検討することとする。さらに、全国各地域の意欲的・先進的なコミュニティソーシャルワークの実践報告、また、若手のメンバーに向けたコミュニティソーシャルワークのワークショップを企画している。

このような企画を通し、全国の関係者が集い活発に討議し、コミュニティソーシャルワーク実践が地域住民の期待に応え、さらにパワーアップすることを目的として開催することとする。

- 開催日時 第一日目：2025年9月5日(金) 13:30～16:30
第二日目： 9月6日(土) 10:00～16:40
- 会場 全体会場 大正大学巣鴨キャンパス5号館5階553教室
コミュニティソーシャルワーク入門ワークショップ 5号館2階 TSR スタジオ1
- 開催方法 対面とZOOMのオンラインによるハイブリッド方式
- 参加対象 コミュニティソーシャルワーク実践に関する関係者、研究者・学生等
- 主催 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所
- 後援 日本地域福祉学会(予定)
- 参加定員 会場参加者 63名、オンライン参加者 100名(申し込み先着順)
※コミュニティソーシャルワーク入門ワークショップは会場のみ30名となります

■ 参加費 [個人]

・一般	2日間	5,000円	1日のみ	3,000円
・日本地域福祉研究所所員	2日間	4,000円	1日のみ	2,000円
・大学院生・学生	2日間	2,000円	1日のみ	1,000円

[団体参加]

- ・5名以内（オンライン参加のみ）15,000円、5名以上は、5名ごとに10,000円
※申込QRコードは最終ページに掲載

プログラム

[第一日目：9月5日（金）13:30～16:30]

13:00～ 受付開始

13:30～ 開会

開会あいさつ 日本地域福祉研究所 所長 宮城 孝（法政大学）

コミュニティソーシャルワーク実践報告

[報告25分 質疑応答・コメント15分]

進行：呉 世雄（立命館大学） コメンテーター：神山裕美（大正大学）

① 13:40～14:20 東京都渋谷区社会福祉協議会 子ども支援課主事 石嶋瑛一氏

「地域ので子どもを育む、区内100カ所のこどもテーブル」

② 14:20～15:00 東京都大田区社会福祉協議会おた地域共生ボランティアセンター

地域共生担当 地域福祉コーディネーター 高橋七海氏、苫米地晶子氏

「文房具の寄附を通して地域をつなぐスタディドライブ」

15:00～15:10 休憩

③ 15:10～15:50 静岡県掛川市社会福祉協議会地域支援係

ひきこもり支援担当 藤原友紀氏、前田綾氏

「掛川市におけるひきこもりサポート ～つどいの場『Myラボ』の実践～」

④ 15:50～16:30 三重県伊賀市社会福祉協議会くらし支援課主幹 一見俊介氏

「コミュニティソーシャルワークの視点によるファンディングの展開」

16:30 終了

17:00～ 情報交換会

[第二日目 9月6日（土）10:00～15:30]

[午前の部]

コミュニティソーシャルワーク実践報告（25分報告 15分質疑応答）

進行：大石 剛史（東北福祉大学） コメンテーター：中島 修（文京学院大学）

⑤ 10:00～10:40 岩手県花巻市社会福祉協議会

地域福祉課課長 工藤 淳氏、石鳥谷支所長 廣野智子氏

「計画づくりは地域づくり～日常生活圏域の特色活かした地域福祉活動計画～」

- ⑥ 10:40～11:20 東京都三鷹市社会福祉法人にじの会 地域貢献事業主任 木村高大氏
「障害者施設が行う高齢者の買い物支援と交流による地域貢献の展開」
- ⑦ 11:20～12:00 埼玉県新座市 NPO 法人新座子育てネットワーク 代表理事 坂本純子氏
「妊娠期から18歳までの子ども・子育て家庭を地域のネットワークで支援」

〔コミュニティソーシャルワーク入門ワークショップ〕 10:00～12:00 対面のみ 定員 30名

進行：菱沼幹男（日本社会事業大学）、張夢瑶（東洋大学）、洪心璐（山口県立大学）

ミニ講義 コミュニティソーシャルワークの基本を学ぼう

グループワーク コミュニティソーシャルワーク業務の悩みを解決しよう

〔午後の部〕

第Ⅰ部 基調講演 13:00～14:00

（仮題）

「自治体における重層的支援体制整備事業とコミュニティソーシャルワーク実践」
－地域共生社会の在り方検討会議報告を踏まえて－

日本福祉大学学長・日本地域福祉研究所副理事長 原田正樹

14:00～14:10 休憩

第Ⅱ部 シンポジウム 14:10～16:30

「コミュニティソーシャルワーク実践におけるアウト・リーチの意義と方法、
そして課題を探る」

進行 : 宮城 孝

コメンテーター：田中英樹（日本医療大学）

- ① 行政の立場から 東京都狛江市福祉政策課福祉政策係係長 小嶋諒氏
重層的支援体制整備事業の一環として各種民間事業者等の協力を得て「つながるシート」を活用し、アウトリーチを積極的に推進
- ② NPOの立場から 認定特定非営利活動法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口仁史氏
不登校・ひきこもりの子ども・若者へこれまで約6万7千件以上のアウトリーチを展開、その徹底した寄り添いの実践が2015年8月NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』で紹介
- ③ 社協の立場から 秋田県藤里町社会福祉協議会会長 菊池まゆみ氏
4千人足らずの町で約110人のひきこもり状態にある人にアウトリーチを実践、過疎の町おこしの貴重な人材に。2025年2月NHK『新プロジェクトX～挑戦者たち』に出演

16:30 シンポジウム終了

16:30 閉会の挨拶

16:40 終了

■ 参加申し込みについて

8月25日（月） 参加申し込み締め切り

9月1日（月） 参加者参加費納入締め切り

9月3日（水） 参加申込者へ当日資料送付

右のQRコードから、
お申し込みください。



QRコードが開けない場合は、
日本地域福祉研究所事務局へ
ご連絡ください。

■ 大正大学 アクセス案内

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

【電車の場合】

- 都営地下鉄三田線・・・西巣鴨駅下車 A3 出口 徒歩 2 分
- JR 埼京線・・・板橋駅東口下車 徒歩 10 分
- 都電荒川線・・・庚申塚駅又は新庚申塚駅下車 徒歩 7 分

【バス】

池袋駅東口から都バス・・・堀割バス停下車 徒歩 2 分

6 番乗り場 西新井駅前行き、北車庫前行き、新田一丁目行き

7 番乗り場 浅草雷門南行き

12 番乗り場 とげぬき地蔵前行き

13 番乗り場 浅草寿町行き



特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

電話 03-5839-2799 FAX03-5839-2798

E-mail jicsw@mx3.alpha-web.ne.jp

Web サイト <https://www.jicw.jp/>